

東京芸術祭 2022

Tokyo Festival 2022

2022（令和4）年9月1日（木）～12月11日（日）102日間

東京芸術劇場、GLOBAL RING THEATRE（池袋西口公園野外劇場）、
豊島区立芸術文化劇場（東京建物 Brillia HALL）ほか東京・豊島区池袋エリア

<https://tokyo-festival.jp/2022>

「東京芸術祭 2022」演目ラインアップ発表のご案内

東京芸術祭実行委員会は、2022年9月1日（木）から12月11日（日）にかけて、豊島区池袋エリアを中心に開催する「東京芸術祭 2022」の演目ラインアップを発表いたします。

■事業に関するお問い合わせ

東京芸術祭実行委員会事務局 TEL：050-1746-0996（平日10:00～18:00）

■広報に関するお問い合わせ

東京芸術祭実行委員会事務局広報 E-mail：press@tokyo-festival.jp TEL：050-1751-9480（平日10:00～18:00）

ご挨拶～文化交流の力を信じて～

本年の「東京芸術祭」は、9月1日より12月11日までの102日間にわたり、豊島区・池袋を中心に開催いたします。

鶴屋南北の「桜姫東文章」をベースにルーマニアで再創造された『スカーレット・プリンセス』の招聘や文学史上の名作「嵐が丘」を大胆に再構成して上演する池袋西口公園での野外劇をご堪能ください。

さらに豊島区内の街中プロジェクトやアジア諸国からのアーティストとのZoomのシステムを使用しての国際共同制作などを準備しています。

新型コロナの執拗な感染拡大、世界を揺るがす戦争の脅威、加えて国内での民主主義を冒涇する暴力行為など、よもやの出来事が矢継ぎ早に起こる中ではありますが、世界の文化交流の流れを絶やささないよう「東京芸術祭」をよろしく願いいたします。

東京芸術祭実行委員会 委員長 近藤誠一

芸術文化の未来をつくる 国際舞台芸術祭「東京芸術祭 2022」

東京芸術祭は、東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界とつながることを目指し、毎年秋に豊島区池袋エリアを中心に開催している都市型総合芸術祭です。東京の文化の魅力を分かりやすく見せると同時に、東京における芸術文化の創造力を高めることを目標とし、今年で7年目を迎えます。

中長期的には、社会課題の解決や人づくり、都市づくり、そして、グローバル化への対応を視野に入れ、日本最大級の舞台芸術を中心とした幅広いジャンルの公演事業、アートプロジェクト、また、芸術分野で国際的に活躍する人材の育成プログラムも多数実施し、“芸術文化の未来をつくる芸術祭”を展開しています。

事業の2本柱を設定

舞台芸術の上演・配信・地域を巻き込む催しなどからなる「東京芸術祭プログラム」と、人材育成と教育普及の枠組みである「東京芸術祭ファーム」との、2本の柱で構成する構造に事業を再編しました。それぞれが役割を明確にし、有機的につながることで、芸術祭のミッションの実現を果たしてまいります。

アクセシビリティのより一層の拡充

あらゆる人が芸術文化の魅力を共感し合えるアクセシビリティを目指して、一層の拡充をはかっています。多言語対応をはじめ、車椅子席のご用意、会場までのお迎え・お送り対応、視覚障害者のための音声ガイドや聴覚障害者のためのポータブル字幕機、子育て中の親のアート鑑賞と子供のアート体験を両立させる託児プログラムなど、様々な角度からサポートいたします。

今回は、聴覚障害者を対象とした、ダンスを楽しむための新しい字幕サポートにも取り組んでおります。

ご挨拶

東京都知事 小池百合子

世界の人々の心が触れ合う文化の祭典でもあった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、多彩な文化プログラムを展開し、次の世代につなぐべき様々な文化レガシーとして結実しました。

2016年から開催してきたこの芸術祭も、豊島区池袋から、東京の芸術文化の魅力を国内外に発信し、にぎわいや交流を生む文化拠点の創出につながっています。

私たちは新型コロナウイルス感染症やエネルギー需給など厳しい状況の中ではありますが、芸術は人の心に潤いと活力を与えてくれます。適切に対策を講じながら、多くの方に楽しんでいただける国内外の演劇作品を上演します。都民の皆様が優れた舞台芸術に直接触れることで、喜び、感動、そして新たな発見の機会になることを期待しています。

ご挨拶

豊島区長 高野之夫

2016年より開始した東京芸術祭は、今年で7回目を迎え豊島区の秋を象徴するイベントの一つとして定着してまいりました。「ひらく」「きわめる」「つながる」をキーワードに、実施体制やプログラム内容を年々アップデートし、成長を続けています。

今年度、区制施行90周年を迎える豊島区は、「過去から学び、今日のために生き、未来へ希望をつなげる」、次の100周年に向けたとしま新時代のスタートの年であります。この記念すべき年を、多くの区民のみなさんと共に「国際アート・カルチャー都市」、「SDGs 未来都市」の実現を目指して邁進してまいります。

今年の秋も、「誰もが主役になれるまち」豊島区で、多彩で奥深い舞台芸術祭をお楽しみください。

■東京芸術祭 2022 に関する最新情報を随時配信いたします

特設サイト <https://tokyo-festival.jp/2022>

Facebook @tokyofestivalsince2016 / Twitter @tokyo_festival / Instagram @tokyo_festival

31 プログラム ラインアップ

2022年 8月1日現在

東京芸術祭プログラム				
掲載ページ	日程	演目	会場	ディレクション レーベル
P.7	9月1日(木) ～30日(金)	第34回 池袋演劇祭	豊島区内14会場	—
P.7	9月23日(金・祝)	東京芸術祭 2022 グランドオープニング	GLOBAL RING THEATRE (池袋西口公園野外劇場)	東京芸術祭 直轄プログラム
P.8	10月(予定) 後日アーカイブ配信 (予定)	東京芸術祭 2022 シンポジウム 「なぜ他者と空間を共有するのか？ ～メディア、医療、舞台芸術の現場から～」	都内会場 オンライン	東京芸術祭 直轄プログラム
P.8	10月～芸術祭会期 終了まで配信(予定)	東京芸術祭 2022 シンポジウム 「芸能者はこれからも旅をするのか？ ～コロナ後の国際舞台芸術祭における環境と 南北問題～」	オンライン	東京芸術祭 直轄プログラム
P.9	10月5日(水) ～9日(日)	『WORLD BEST PLAY VIEWING ワールド・ベスト・プレイ・ビューイング』	東京芸術劇場 シアターイースト	芸劇オータム セレクション
P.10	10月8日(土) ～11日(火)	『スカーレット・プリンセス The Scarlet Princess』	東京芸術劇場 プレイハウス	芸劇オータム セレクション
P.11	10月8日(土) (予定)	『セレモニー』	豊島区大塚駅周辺	東京芸術祭 直轄プログラム FTレーベル
P.11	10月11日(火) ～23日(日)	東京芸術祭ひろば	東京芸術劇場 アトリエイースト	東京芸術祭 直轄プログラム
P.12	10月14日(金) ～16日(日)	SPAC-静岡県舞台芸術センター 『夢と錯乱』	東京芸術劇場 シアターイースト	東京芸術祭 直轄プログラム
P.13	10月17日(月) ～26日(水)	野外劇『嵐が丘』	GLOBAL RING THEATRE (池袋西口公園野外劇場)	東京芸術祭 直轄プログラム
P.14	10月19日(水) ～25日(火)	映像演劇『階層』	東京芸術劇場 シアターイースト	東京芸術祭 直轄プログラム FTレーベル
P.15	10月28日(金) ～30日(日)	『An Imperial Sake Cup and I — 恩賜の盃と私』	東京芸術劇場 シアターイースト	東京芸術祭 直轄プログラム FTレーベル
P.16	10月29日(土) ～30日(日)	akakilike『捌く-Sabaku』	東京芸術劇場 シアターウエスト	東京芸術祭 直轄プログラム FTレーベル
P.17	10月28日(金) ～30日(日)	アトカル・マジカル学園 アートサポート児童館	東京芸術劇場 アトリエイースト	東京芸術祭 直轄プログラム
P.17	10月30日(日)	民俗芸能 in としま2022	GLOBAL RING THEATRE (池袋西口公園野外劇場)	としま国際アート・ カルチャー都市発信 プログラム
P.18	10月下旬 ～11月中旬(予定)	『くらしチャレンジ』 (大人とこどものための戯曲集)	豊島区内会場(予定)	東京芸術祭 直轄プログラム FTレーベル
P.19	11月4日(金) ～6日(日)	山本卓卓×北尾 亘 『となり街の知らない踊り子』	東京芸術劇場 シアターイースト	芸劇オータム セレクション

P.20	11月12日(土) ～23日(水・祝) (土・日・祝日開催)	アトカル・マジカル学園 かぞくアートクラブ	東京芸術劇場 アトリエウエスト	東京芸術祭 直轄プログラム
P.20	11月14日(月)	第35回 としま能の会	豊島区立芸術文化劇場 (東京建物 Brillia HALL)	としま国際アート・ カルチャー都市発信 プログラム
P.21	11月23日(水・祝) ～12月11日(日)	『守銭奴 ザ・マネー・クレイジー』	東京芸術劇場 プレイハウス	芸劇オータム セレクション
東京芸術祭ファーム				
掲載 ページ	日程	演目	会場	ディレクション レーベル
P.23	8月17日(水)	公開レクチャー 「無国籍ーわたしの居場所はどこ?」	オンライン	ラボ
P.24	10月7日(金) ～9日(日)	Farm-Lab Exhibition パフォーマンス 試作発表『タイトル未定』 セリーナ・マギリュー	東京芸術劇場 アトリエイースト・ アトリエウエスト(予定)	ラボ
P.25	10月7日(金) ～9日(日)	Farm-Lab Exhibition パフォーマンス 試作発表『Education(in your language)』 y/n (橋本 清+山崎健太)	東京芸術劇場 アトリエイースト・ アトリエウエスト(予定)	ラボ
P.26	10月16日(日)	Asian Performing Arts Camp 公開セッション	オンライン	ラボ
P.27	10月31日(月) ～11月5日(土)	ディレクターズフォーラム	東京芸術劇場 シンフォニー スペースおよびオンライン ほか	ラボ
P.28	—	クリエイティブインターン	—	ラボ
P.28	—	アートトランスレーターアシスタント	—	ラボ
P.28	—	ファーム編集室 アシスタントライター	—	ラボ
P.28	—	制作アシスタント	—	ラボ
P.28	—	ファーム ラボ ビジター	—	ラボ
P.29	—	スクール	—	スクール

芸術とは人間らしく生きるための処方箋

ディレクター 宮城 聡

芸術は人間らしく生きるために必要なものである。このことは私の変わらない考えです。芸術こそが、世界がどんなに厳しい状況にあっても、人々が心の中で重大な危機に直面していても、命をつなぐザイルのような存在になりうるのではないだろうか。また個人が日常的に不安を抱えていたとしても、崖っぷちから這い上がることができる処方箋に芸術はなれるのではないだろうか。芸術がもつそのような根本的な効能を、芸術に携わる側がもっと発信していかなければならない、伝えていかなければならない。それが今、私が一番強く思っていることです。さらに言えば、舞台芸術は生身の人間がダイレクトに人に訴えかける表現です。それは個人にとってのザイルや処方箋にもなりますが、大きくは世界と人、人と人に橋を架けるものと言えるでしょう。もし劇場の中で何をしているか見えない、何だか敷居が高いように思われているなら、私たちは敷居を溶かして街へと沁み出して行きます。演劇とは言ってみれば目の前で人間が全力で人に何かを伝えようとしている単純な営みです。そもそも敷居なんてありません。コロナ禍で我慢を強いられて、あちこちに出来た心の敷居、それはただ“出会う”だけで掻き消えるものなのです。「何だか一生懸命にやっていたね」——そう感じてもらえれば、その瞬間に「橋」が架かります。劇場、野外、広場そして街中で、芸術が世界に架ける橋を是非渡ってみてください。

第34回 池袋演劇祭

出演：特別参加、前回大賞受賞団体を含め全39団体

日程：9月1日(木)～30日(金)

会場：豊島区内14会場



地域に根ざしたユニークな演劇祭！

池袋演劇祭は、平成元年（1989年）から地域密着型の演劇祭として実施され、今年で34回目を迎えます。9月の一か月間に豊島区内で公演を行う団体が参加、また一般公募で選出された審査員の採点により大賞をはじめとするすべての賞を決定します。豊島区が推進する「国際アート・カルチャー都市構想」の一環として、「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」を実現し、演劇・劇場文化のすそ野を広げるため開催される地域に根ざしたユニークな演劇祭です。

東京芸術祭 2022 グランドオープニング

日程：9月23日(金・祝)

会場：GLOBAL RING THEATRE
(池袋西口公園野外劇場)



新たな東京を発見し、世界とつながる芸術祭。

「東京芸術祭 2022」を賑やかに華やかに彩るオープニングプログラムを、池袋西口公園野外劇場“GLOBAL RING THEATRE”にて開催します。

第一部 セレモニー 13:00

9月～12月まで続く東京芸術祭の開催を、主催者による挨拶、来賓からの祝辞、そしてミニパフォーマンスなど、観客の皆さまと祝うためのセレモニーを行います。

第二部 『シン・マイムマイム』 17:00～18:00

振付：スズキ拓朗

マイムマイムをはじめ、フォークダンスをごきげんにアレンジした、誰でも踊れる参加自由な大イベントです。当日飛び入り大歓迎！お気軽に遊びにいらしてください。

*参加費：無料

【シリーズ・持続可能な舞台芸術の環境をつくる】
東京芸術祭 2022 シンポジウム
 「なぜ他者と空間を共有するのか？」
 ～メディア、医療、舞台芸術の現場から～

登壇者：多田淳之介 横山義志 ほか

日程：10月（予定） 後日アーカイブ配信（予定）

会場：都内会場



人に会って、リスクなの？

コロナ禍を通じて、いよいよ多くのことがオンライン上でできるようになりました。それでもなお、他者と空間を共有したいとすれば、あるいはせざるをえないとすれば、それはなぜなのか。メディア、医療、パフォーマンスの専門家とともに、空間を共有することの意義を問いなおしてみたいと思います。

* 日本語開催

* アクセシビリティ：配信動画は英語字幕あり

【シリーズ・持続可能な舞台芸術の環境をつくる】
東京芸術祭 2022 シンポジウム
 「芸能者はこれからも旅をするのか？」
 ～コロナ後の国際舞台芸術祭における環境と南北問題～

登壇者：長島 確 横山義志 ほか

日程：10月～芸術祭会期終了まで配信（予定）

会場：オンライン



国際舞台芸術祭とパンデミック、同じコインの裏表？

COVID-19の世界的感染拡大により、国境をまたぐ移動が厳しく制限されるようになり、オンラインでの国際交流が盛んになりました。そのなかで、移動・物流の環境負荷やリスクについての議論も熱を帯びています。一方で、これらは最近まで移動できなかった人たちが移動できるようになった結果でもあり、国際舞台芸術祭がグローバル化したのもそのためです。移動制限は南北格差の固定化にもつながりかねません。「コロナ後」に向けて、舞台芸術と旅について、どう考えていけばいいのか。舞台芸術における新たな国際交流のあり方を模索している方々にうかがっていきます。

* 英語開催

* アクセシビリティ：日本語字幕あり

Théâtre du Soleil, Internationaal Theater Amsterdam

『WORLD BEST PLAY VIEWING』

ワールド・ベスト・プレイ・ビューイング』

【A】太陽劇団『モリエール』

(1978年フランス・イタリア合作映画／2022年4Kデジタルリマスター版)

愛と革命、芝居に生きた男の一大ロマン！ [上映時間：4時間25分(休憩あり)]

原題：MOLIÈRE ou la vie d'un honnête homme/ LE FILM EN VERSION RESTAURÉE

監督・脚本：アリアヌ・ムヌーシュキン

出演：フィリップ・コーベール ジョゼフィーヌ・ドレンヌ

ブリジット・カティヨン ほか

【B】太陽劇団『最後のキャラバンサライ(オデュッセイア)』(2006年)

難民問題に果敢に切り込む迫真の舞台劇！ [上映時間：4時間50分(休憩あり)]

原題：LE DERNIER CARAVANSÉRAIL(Odyssées)

監督：アリアヌ・ムヌーシュキン

作・出演：太陽劇団(テアトル・デュ・ソレイユ)

【C】インターナショナル・シアター・アムステルダム『ローマ悲劇』(2021年)

現代人を撃つシェイクスピア／血の抗争！ [上映時間：5時間40分(休憩あり)]

原題：Romeinse tragedies

原作：ウィリアム・シェイクスピア

演出：イヴォ・ヴァン・ホーヴェ

出演：インターナショナル・シアター・アムステルダム(ITA)



Photo：(上) 太陽劇団『モリエール』 © Michèle Laurent
 (中) 同上『最後のキャラバンサライ(オデュッセイア)』 © Michèle Laurent
 (下) ITA『ローマ悲劇』 © Jan Versweyeld

日程：10月5日(水)～9日(日)

会場：東京芸術劇場 シアターイースト

世界中の観客を熱狂させる演劇界最高峰の作品をスクリーンで公開

世界演劇の最前線を行く表現の冒険者たちを映像でご紹介します。映画としても圧倒的な熱量とテクニックで、祝祭と革命を余すところなくスクリーンに展開します。決して早送りできない映像スペクタクルに浸る5日間。どうかこの機会をお見逃しなく！

<チケット情報>

■発売日：9月10日(土) 10:00～

■料金(全席自由・整理番号付・税込)：一般 2,500円 65歳以上 2,000円 25歳以下 1,000円

2作品セット券 4,000円 3作品セット券 6,000円

* 【A】 【B】 未就学児以上推奨 / 【C】 12歳以上推奨

* 【A】 【B】 フランス語 / 【C】 オランダ語 上映

* アクセシビリティ：日本語字幕あり * 豊島区民割引あり(枚数限定・前売のみ・要証明書)

太陽劇団(テアトル・デュ・ソレイユ) Théâtre du Soleil

1964年にフランスで設立。“集団創作”という独自スタイルで知られ、演出家 アリアヌ・ムヌーシュキンを中心にパリ郊外のカルトゥーシュリ(弾薬庫跡)を拠点に活動している。70年に上演されたフランス革命を題材とした『1789』は斬新な演劇手法で、世界的注目を集めた。古典から現代の難民問題を扱った作品まで幅広いレパートリーを持つ。2001年に『堤防の上の鼓手』(新国立劇場)で待望の初来日を果たし、アジアの人形劇、特に日本の文楽のエッセンスを大胆に取り入れた表現が大きな話題を呼んだ。最新作は日本の架空の島を舞台にした『L'ÎLE D'OR KANEMU-JIMA』。

インターナショナル・シアター・アムステルダム(ITA) Internationaal Theater Amsterdam

2018年1月にアムステルダム市立劇場とトネールグループ・アムステルダムが合併し、新たにインターナショナル・シアター・アムステルダム(ITA)として18/19年のシーズンから活動開始する。01年にイヴォ・ヴァン・ホーヴェが芸術監督に就任。オランダからトップレベル現代演劇を創作し、世界の演劇界をリードする存在となる。17年に『オセロー』を東京芸術劇場で来日公演。20年に『イヴォ・ヴァン・ホーヴェ演出作品上映会』として圧倒的な舞台映像を一挙3本立てで上映した。ホーヴェの最新作はイザベル・ユペール主演による『ガラスの動物園』。

『スカーレット・プリンセス』 The Scarlet Princess』

上演台本・演出：シルヴィウ・プルカレーテ
原作：鶴屋南北「桜姫東文章」

出演：オフィリア・ポピ ユスティニアン・トゥルク
ルーマニア国立ラドゥ・スタンカ劇場カンパニー

日程：10月8日(土)～11日(火)

*10日は休演

会場：東京芸術劇場 プレイハウス



『The Scarlet Princess』(2018年) 撮影：Sebastian Marcovici

ルーマニアでメタモルフォーゼした歌舞伎の傑作。 スカーレット・プリンセス／桜姫と、いざデカダンの迷宮へ！

歌舞伎の傑作として名高い鶴屋南北「桜姫東文章」を原作に、ルーマニアの鬼才シルヴィウ・プルカレーテが脚本・演出を手がけた全く新しいスタイルの舞台が遂に来日します。ヨーロッパ三大演劇祭のひとつ、ルーマニア・シビウ国際演劇祭のワールドプレミアでは、現代演劇シーンを揺るがす大きな話題となりました。日本の歌舞伎のエッセンスを取り込みつつ、ヨーロッパ的なセンスに溢れた斬新なビジュアルで、これまで見たこともないようなスペクタクルが立ち上がります。ルーマニアで生まれた現代演劇が日本の古典歌舞伎の深層に斬り込むという、グローバル時代にふさわしいパワーに満ちた作品にご期待ください。

<チケット情報>

■発売日：9月10日(土) 10:00～

■料金(全席指定・税込)：一般 S席 9,000円 A席 6,500円 サイドシート 4,000円
65歳以上 7,000円 25歳以下 4,000円 高校生以下 1,000円

*ルーマニア語上演

*アクセシビリティ：日本語・英語字幕あり

*豊島区民割引あり(枚数限定・前売のみ・要証明書)

シルヴィウ・プルカレーテ Silviu Purcarete

演出家。1950年生まれ。ルーマニアを代表する舞台演出家。ヨーロッパ三大演劇祭の一つであるルーマニア・シビウ国際演劇祭で演出を手がける圧巻の大スペクタクル『ファウスト』は、毎年のハイライトとして話題を集めている。また、その演出作品は、エディンバラやアヴィニョン、メルボルン、モントリオールなど、世界中の演劇祭へ数多く招聘されている。フランス政府から芸術文化勲章シュバリエ、ルーマニア政府から国家勲章を受ける。演劇賞では、エディンバラ・フェスティバル批評家最優秀作品賞、ピーター・ブルック賞、ダブリン演劇祭批評家賞など。東京芸術劇場でのクリエーションは『リチャード三世』(2017)『真夏の夜の夢』(2020)の2作品がある。

ルーマニア国立ラドゥ・スタンカ劇場

ラドゥ・スタンカ劇場は、1788年に建設された伝統ある劇場。2000年にコンスタンティン・キリアックが芸術監督就任以降その活動が評価され、2004年に国立劇場となった。約50人の俳優が所属し、古典から実験的作品までシーズン中に約70作品、年間に新作10数本を上演し精力的に活動している。また、94年以降、毎年開催されるシビウ国際演劇祭の共同主催者でもある。シビウ国際演劇祭は、世界約70か国の芸術家が参加し、エディンバラ、アヴィニョンに並ぶ規模を誇る。また、演劇祭の黎明期から日本より数多くの劇団が同演劇祭には参加しており、期間中にこれまでの演劇界への功績を讃えて贈られる「Sibiu walk of fame」には、日本から故・中村勘三郎、串田和美、野田秀樹らが受賞している。

『セレモニー』

プロジェクトメンバー：サリー★（プリンター）
小森あや（プロジェクトマネージャー）
佐々木文美（セノグラファー）
大道寺梨乃（俳優） もてスリム（編集者）
山口あまね（建築家）

日程：10月8日(土)（予定）

会場：豊島区大塚駅周辺



未来人と目を合わせたい人、あつまれ～！

独自のスタイルで作品を発表し続ける劇団「快快（FAIFAI）」のメンバーで舞台美術家の佐々木文美が、再開発に向けた動きが本格化している豊島区・大塚エリアを舞台に、年齢や国籍に関係なく参加・目撃するためのセレモニーを仕掛けます。2019年から参加した、舞台美術家の視点でまちの魅力を再発見するアートプロジェクト『移動祝祭商店街』を通じて、このエリアでの交流を重ねてきた佐々木。まちに住む人、通勤、通学する人、観光客も『セレモニー』の参加者として迎え、ひとときの構造物を参加者同士の協力により出現させて集合写真を撮影します。移りゆくまちと人の眼差しが向けられた写真が、時空を超えた出会いの場を生み出していきます。

*参加費：無料（会期中、一部事前申込が必要なプログラムが含まれる可能性あり）

*雨天決行・荒天中止

佐々木文美 ささき・あやみ

快快(FAIFAI)／セノグラファー。1983年鹿児島県出身。快快の活動に加えて、舞台美術・セノグラファーとして演劇、ダンス、コンサート、展示など様々な企画に参加。近年の参加作品として、快快『ルイ・ルイ』（神奈川芸術劇場・2019年）、モモンガコンプレックス『わたしたちは、そろっている。』（東京芸術劇場・2020年）、セノ派『移動祝祭商店街』（2019-2021年）などがある。ホームパーティーをするのが好き。

東京芸術祭ひろば

日程：10月11日(火)～23日(日)

12:00～20:00（予定）

会場：東京芸術劇場 アトリエイースト



人々が気軽に訪れ、つながることができる情報と交流のひろば

会期中の約2週間、人々が交流できる「東京芸術祭ひろば」がオープン。東京芸術劇場のアトリエイーストが、東京芸術祭の様々な作品や活動、表現について、見て・触れて・交流できる空間に生まれ変わります。会場では、芸術祭のおすすめ情報をお届けするほか、ZINE（ジン：個人がつくる小冊子）の印刷・交換所を開設し、アーティストや学生が参加するトークやワークショップを日々開催します。

*参加費：無料（会期中、一部有料プログラムが含まれる可能性あり）

*アクセシビリティ：車椅子の導線確保・筆談・やさしい日本語の対応

SPAC-静岡県舞台芸術センター 『夢と錯乱』

演出：宮城 聡
作：ゲオルク・トラークル
訳：中村朝子
出演：美加理

日程：10月14日(金)～16日(日)
会場：東京芸術劇場 シアターイースト



撮影：三浦興一

生の岸辺へ

夭折の天才詩人トラークルが死の数ヶ月前に著した自伝的散文詩『夢と錯乱』。突出した文才に恵まれながらも、挫折と罪悪感に苛まれるトラークル自身の人生を映したかのようなこの詩の深い憂鬱を、死の影を、その色彩と音を、俳優とともにたどる。

* * *

フランス演劇界の巨匠クロード・レジは『夢と錯乱』を最後の演出作として選び、2018年に静岡県舞台芸術公園「楢円堂」で上演、闇と沈黙が織りなすその比類ない世界は、観客を感性の臨界へと連れ去った。伝説の舞台から4年、レジの死から3年。30年以上にわたって創作活動を共にする宮城聡と美加理が、トラークルの、そしてすべての人間の救いへの希求を漆黒の空間に響かせる、亡きレジへの静かなオマージュ。

<チケット情報>

■発売日：9月10日(土) 10:00～

■料金(全席指定・税込)：5,000円 ほか

*未就学児入場不可

ゲオルク・トラークル Georg Trakl (1887-1914)

1887年、オーストリア・ザルツブルク生まれ。詩人。幼少より文学に傾倒し、兵役を終えた1912年から詩作が定期的に雑誌に掲載され、1913年には作品集「詩集」を出版。第一次大戦が始まると衛生兵として戦地へ赴くが、ピストルで自殺未遂を図り、クラクフの精神病院に強制送還される。鬱に悩まされ、薬物の過剰摂取により27歳の若さで死去。活動期間は短いものの、ヴィトゲンシュタインから支援を受けるなど同時代の芸術家からも支持され、表現主義の代表的な詩人として知られている。

宮城 聡 みやぎ・さとし

演出家。SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督。東京芸術祭ディレクター。東京大学で小田島雄志・渡辺守章・日高八郎各師から演劇論を学び、1990年、ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007年4月、SPAC芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、またアウトリーチにも力を注ぎ「世界を見る窓」としての劇場運営をおこなっている。2017年、『アンティゴネ』をフランス・アヴィニョン演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演、アジアの演劇がオープニングに選ばれたのは同演劇祭史上初めてのことであり、その作品世界は大きな反響を呼んだ。他の代表作に『王女メディア』『マハーバーラタ』『ペール・ギュント』など。2004年、第3回朝日舞台芸術賞受賞。2005年、第2回アサヒビール芸術賞受賞。2018年、平成29年度第68回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。2019年4月、フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章。

美加理 みかり

東京生まれ。1979年、寺山修司作・演出『青ひげ公の城』でデビュー。80年代小劇場界で活躍後、90年より宮城聡率いるク・ナウカの中心メンバーとして活動。98年、SPACに初参加し、2010年から毎年出演している。“想像力を喚起する身体”“パフォーマーとしての圧倒的な集中力”と評される存在感とパフォーマンスは、国内外で高い評価を得ている。主な出演作『天守物語』（富姫）『王女メディア』（メディア）『マハーバーラタ』（ダマヤンティ）『アンティゴネ』（アンティゴネ）など多数。

野外劇『嵐が丘』

作：エミリー・ブロンテ

演出：小野寺修二

出演：王下貴司 久保佳絵 斉藤 悠
 崎山莉奈 菅波琴音 竹内 蓮 丹野武蔵
 鄭 亜美 辻田 暁 富岡晃一郎 中村早香
 西山斗真 埴 睦美 宮下今日子
 片桐はいり

日程：10月17日(月)～26日(水) 17:00開演

*24日(月)休演

会場：GLOBAL RING THEATRE

(池袋西口公園野外劇場)



小野寺修二 撮影：鈴木稜蔵 片桐はいり

2022・秋 池袋西口に憎悪と復讐をはらむ風 吹きすさぶ荒野、あらわる。

劇場を「ひらく」アクションとして、これまで劇場に足を運んだことのない人々が初めて舞台演劇に触れる機会と、まちなかの賑わいを同時に創出する野外劇。ワンコインでふらりと立ち寄り、“日常に出現する非日常のスペクタクル”をテーマとした一流のアーティストによる高品質なパフォーマンスに触れられることは、芸術祭ならではの醍醐味と言えるでしょう。

今回は、演劇、ダンス、テレビドラマと活躍めざましい稀代のパフォーマー小野寺修二を演出に迎え、新作『嵐が丘』に挑みます。英国の女流作家エミリー・ブロンテによる文学史上の名作「嵐が丘」を大胆に再構成し、完全円形舞台でスケールの大きなスペクタクルに仕上げます。小野寺のマイムの動きをベースとした身体表現による独創的な世界観に、言葉、光と音、空間を最大限に活かす演出が相乗効果として作用し、1847年に英国で発表された物語が現代の物語として立ち上がります。

街の只中で夕景から夜に掛かる時間、喧騒さえも芝居の一部になる都会の野外劇。その異空間をご堪能ください。

<チケット情報>

■発売日：9月10日(土) 10:00～

■料金(全席自由・税込)：500円 ほか

*未就学児入場不可

*アクセシビリティ：聴覚障害者・外国人を対象にしたポータブル字幕機(日本語・やさしい日本語・多言語AI翻訳)／10月22日(土)・23日(日)提供予定)

小野寺修二 おのでら・しゅうじ

演出家。カンパニーデラシネラ主宰。日本マイム研究所にてマイムを学ぶ。1995年～2006年、パフォーマンスシアター水と油にて活動。その後、文化庁新進芸術家海外研修制度研修員として1年間フランスに滞在。帰国後、カンパニーデラシネラを立ち上げる。マイムの動きをベースにした独自の演出で注目を集めている。主な演出作品として、現代能楽集IX『竹取』(2018年/シアタートラム他)、『国際共同制作 TOGE』(2021年/神奈川芸術劇場)、『ふしぎの国のアリス』(2017年、22年/新国立劇場他)など。また野外劇や学校巡回公演など、劇場内にとどまらないパフォーマンスにも積極的に取り組んでいる。音楽劇や演劇で振付も手がけ、第18回読売演劇大賞最優秀スタッフ賞を受賞。2015年度文化庁文化交流使。2021年NHK大河ドラマ『青天を衝け』にて、北大路欣也扮する徳川家康周辺の振付を担当。

片桐はいり かたぎり・はいり

俳優。1963年生まれ、東京都出身。大学在学中に映画館のもぎりのアルバイトをしながら、劇団で舞台デビュー。その後、CM、映画、テレビドラマと幅広く活躍。主な出演作品は『未練の幽霊と怪物―「挫波」「敦賀」―』(2021年/作・演出：岡田利規)、『あの大鴉、さえも』(16年/作：竹内銃一郎 演出：小野寺修二)、『キレイ～神様と待ち合わせした女』(05年/演出・脚本：松尾スズキ)、『オイル』(03年/演出・脚本：野田秀樹)、舞台&映画『小野寺の弟、小野寺の姉』(13、14年)、映画『私をくいとめて』(20年)、『かもめ食堂』(06年)、ドラマ『ちむどんどん』(22年)、『あまちゃん』(13年)、『すいか』(03年)ほか多数。執筆も行っており、著書『わたしのマトカ』『グアテマラの弟』(幻冬舎)。映画愛に溢れたエッセイ「もぎりよ今夜も有難う」(キネマ旬報社)は、第82回キネマ旬報ベスト・テン読者賞を受賞。

映像演劇『階層』

作・演出：岡田利規

映像：山田晋平

キャスト：オーディションで選考された市民
 (伊藤すみか 浦田すみれ 江上定子 笠田優奈
 勝田雄介 加藤瑤子 眞田信三 富高有紗
 長井健一 西川ちさと 早川吉乃 矢野昌幸
 油井文寧 横田僚平)
 米川 幸リオン



Photo by Kaori Itoh

日程：10月19日(水)～25日(火)

会場：東京芸術劇場 シアターイースト

生身の人間はいないのに、紛れもない演劇。

国際的に活躍する演劇作家・チェルフィッチュ主宰の岡田利規が、舞台映像デザイナーの山田晋平と共に2018年より取り組んできた〈映像演劇〉。観客は、空間に配置されたパネル状のスクリーンに投影される等身大の俳優の映像と対峙します。俳優達はスクリーンの中にしかおらず、その場に生身の人間はいません。にもかかわらず、そこには不思議とある種の演劇空間が立ち現れるのです。

本作は、穂の国とよはし芸術劇場PLATが毎年実施する“市民と創造する演劇”シリーズの一環として、岡田・山田の両名を迎え、オーディションで選ばれた市民と共に創作されました。観客は舞台上へ上がり、その床に空いた横長の穴から奈落空間を覗き見ます。劇場という空間構造を大いに利用しながら、〈映像演劇〉の構造そのものをも問う作品、この新しい演劇の形式が東京芸術祭に登場します。

<チケット情報>

■発売日：9月10日(土) 10:00～

■料金(整理番号付・税込)：1,500円 ほか

*未就学児入場不可

*アクセシビリティ：ポータブル字幕機 (日本語・英語 / 10月22日(土)・23日(日)提供予定)

岡田利規 おかだ・としき

演劇作家、小説家、チェルフィッチュ主宰。

“想像”を用いた独特な言葉と身体の関係性による方法論や、現代社会への批評的な眼差しが評価され、国内外で高い注目を集める。チェルフィッチュでは2007年に『三月の5日間』で海外進出を果たして以降、世界90都市以上で上演。近年では欧州の公立劇場のレパートリー作品も手がける。2018年にタイの小説家、ウティット・ヘーナムーンの原作を舞台化した『プラータナー：憑依のポートレート』を制作し、2020年2月に第27回読売演劇大賞 選考委員特別賞を受賞。能のフォーマットを用いた『未練の幽霊と怪物―「挫波」「敦賀」一』(2021年)の制作や歌劇『夕鶴』(2021年)で初めてオペラの演出を手掛けるなど活動の幅をさらに広げている。

山田晋平 やまだ・しんべい

舞台映像作家。1979年生まれ。(株)青空代表。愛知県豊橋市在住。演劇やコンテンポラリーダンスを中心に、オペラ、コンサートなど、様々な舞台芸術の上演内で使用される演出映像の製作が専門。近年では、現代美術家とのコラボレーションによるプロジェクトマッピング作品や、インスタレーションなどの製作も行う。劇場や美術館にとどまらず、まちなかの建物や生活空間にまで表現の場を広げ、サイトスペシフィックなアートプロジェクトの企画・監修も行っている。舞台芸術と現代美術のフィールドを横断し、かつ芸術と日常生活の空間的な境界を横断しながら、映像芸術の新たな可能性を探る活動を展開している。2020年4月、豊橋市にアトリエ兼住居「冷や水」を開設。アートイベントを定期的開催し、地域に対する芸術文化普及活動を行っている。

『An Imperial Sake Cup and I — 恩賜の盃と私 』

構成・出演：チャーンウィット・カセートシリ
演出：ティーラワット・ムンウィライ（カゲ）



Photo by Santiphap Inkong-ngam

日程：10月28日(金)～30日(日)
会場：東京芸術劇場 シアターイースト

昭和・平成・令和。

日本とタイの変化を見つめてきた歴史学者によるレクチャーパフォーマンス。

タイおよび東南アジアを代表する歴史学者 チャーンウィット・カセートシリによるレクチャーパフォーマンスです。1964年に当時の皇太子（のちに平成の明仁天皇）夫妻がタイを公式訪問した際にチャーンウィットが記念に賜った酒盃を起点とし、自身の個人史をたどりながら、日本軍のタイ駐留、ベトナム戦争、1970年代のタイの学生暴動など、世界的な社会の変容を辿っていきます。モノや記憶にまつわる個人的かつミクロな視点から、タイと日本の歩みを重ね合わせ、両国の歴史を柔らかくに解きほぐします。2020年に国際交流基金アジアセンター主催“The Breathing of Maps”（「呼吸する地図たち」）のプログラムとして、チェンマイ（タイ）にて初演された本作を、初の海外公演として日本で上演します。

<チケット情報>

- 発売日：9月10日(土) 10:00～
- 料金(全席自由・整理番号付・税込)：2,500円 ほか
- *未就学児入場不可
- *タイ語上演
- *アクセシビリティ：日本語・英語字幕あり

チャーンウィット・カセートシリ Charnvit Kasetsiri

タマサート大学歴史学部教授、歴史学者、タイ研究者として多くの功績を残す。1963年にタマサート大学で外交学の学士号を優等で取得した後、ロックフェラー奨学金を得て1967年にロサンゼルス大学のオキシデンタル大学で外交と世界情勢の修士号を、1972年にコーネル大学で東南アジア史の博士号を取得。論文「The Rise of Ayudhya and a History of Siam in 14th and 15th Centuries」は、1976年にOxford in Asiaから出版された。1973年から2001年までタマサート大学歴史学講師を務め、2000年に東南アジア研究プログラムを創設、1995年から1996年にはタマサート大学学長を務める。近年は、戦争と平和、ASEAN諸国、特にタイとカンボジアの関係をテーマに研究を行う。Pavin Chachavalongpong(京都)、Pou Sothirak(プノンペン)と共に「Preah Vihear; A Guide to the Thai-Cambodian Conflict and Its Solutions」(2013年)の共著者でもある。また共同執筆したタイの社会科の教科書は日本語にも翻訳されている(世界の教科書シリーズ6『タイの歴史：タイ高校社会科教科書』中央大学政策文化総合研究所＝監修、柿崎千代＝訳、明石書店、2002)。2012年に福岡アジア文化賞、2014年に米国アジア研究協会よりアジア研究への特別貢献賞を受賞。

ティーラワット・ムンウィライ（カゲ） Teerawat 'Ka-ge' Mulvilai

B-Floor Theatre共同創設者・共同芸術監督。演出家・パフォーマー。タマサート大学美術・応用芸術学部でデバイスド・シアター(Devised Theatre)の講師を務める。タイの演劇界における優れた功績に対して、タイの現代芸術文化省から贈られたSilpathorn Award(2018)など、受賞歴多数。造形芸術と舞台芸術を融合させ、社会と政治における暴力や不公平さなど人々の生活に影響を与える構造の問題を扱いながら批評的な作品を創作している。日本においては、小池博史、平田オリザ、岡田利規などの国際的に活躍する演出家と共演。近年の日本での出演作品に『プラーターナー：憑依のポートレート』(2019)がある。

akakilike

『捌く-Sabaku』

演出・構成：倉田 翠

出演：今村達紀 石原菜々子 大石英史
 黒田健太 竹ち代穂也 田辺泰信 狭間要一
 平澤直幸 前田耕平 森本圭治 諸江翔大朗
 山本和馬 よしたく
 寺田みさこ



©Kai Maetani

日程：10月29日(土)～30日(日)

会場：東京芸術劇場 シアターウエスト

群れのなかで人はソロでいられるか。

コロナ禍で2度中止になった幻の新バージョン、ついに登場。

akakilike (アカキライク) を主宰する倉田翠は、これまでも薬物依存の回復施設の入所者たちや、複雑な歴史が染み込んだ地域の高齢者などとも協働し、そのいずれも“人と人”として相手と向き合いながら、彼らのありのままの魅力を引き出し、作品として舞台上で結実させてきました。本作品は、そんな創作手腕が十分に発揮された、原点とも言える作品です。本作の出演者も、プロのパフォーマーからそうでない者まで多様な経験を持っており、個々の存在そのものの輝きが倉田の手によって引き出されます。2017年の初演後もアップデートを続け、コロナ禍で2度中止となったその新バージョンが、ついに登場します。語りを使わずに、出演者の身体の有り様だけを使って紡がれた時間と空間は、個々の人間の存在をありのままに認め、そこに“人がいる”というリアルを、日常生活とは異なる解像度で観客に目撃させることでしょう。

<チケット情報>

■発売日：9月10日(土) 10:00～

■料金(全席自由・整理番号付・税込)：3,500円 ほか

* アクセシビリティ：聴覚障害者を対象としたポータブル字幕機 (10月30日(日)提供予定)

※文字に動きや表情をもたせることで音のイメージが伝わりやすくなることを目指す“アニメーション字幕”と呼ばれるものです

倉田 翠 くらた・みどり

1987年三重県生まれ。京都造形芸術大学(現・京都芸術大学)映像・舞台芸術学科卒業。3歳よりクラシックバレエ、モダンバレエを始める。京都を中心に、演出家・振付家・ダンサーとして活動。作品ごとに自身や他者と向かい合い、そこに生じる事象を舞台構造を使ってフィクションとして立ち上がらせることで「ダンス」の可能性を探求している。2010年より継続的に、ギャラリーでの身体展示企画『今あなたが「わたし」と指差した方向の行く先を探すこと』展を開催。KUAD graduates under 30 selectedにて発表した同企画で、嶋敦彦(国立国際美術館副館長)賞を受賞。2016年より、倉田翠とテクニカルスタッフのみの団体、akakilike(アカキライク)の主宰を務め、アクターとスタッフが対等な立ち位置で作品に関わる事を目指し活動している。2018年度ロームシアター京都×京都芸術センター U35創造支援プログラム“KIPPU”選出。セゾン文化財団セゾン・フェローⅠ。

アトカル・マジカル学園 アートサポート児童館

プロデュース：多田淳之介

日程：10月28日(金)～30日(日)
会場：東京芸術劇場 アトリエイースト



子育て中でもアートを楽しむ！ こどもだってアートを楽しむ！ 託児所+アート＝アートサポ児童館！

子育て中の親のアート鑑賞と、こどものアート体験を両立させる“アート体験支援型託児プログラム”。親にとつての「自分だけ楽しんでる」後ろめたさ、こどもたちにとっての「預けられた」という負のイメージを払拭し、「また預けたい」「また行きたい」と思える、託児の概念を変革させるプロジェクトです。

東京芸術祭 2022のプログラム観劇のほか、映画、音楽、美術鑑賞などにもご利用いただけます。

*参加費：500円（2h）延長可

多田淳之介 ただ・じゅんのすけ

1976年生まれ。演出家。東京デスロック主宰。古典から現代戯曲、ダンス、パフォーマンス作品まで現代社会の当事者性をフォーカスしアクチュアルに作品を立ち上げる。子供や演劇を専門としない人とのワークショップや創作、韓国、東南アジアとの海外コラボレーションなど、演劇の協働力を基にボーダーレスに活動する。2010年より富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督に公立劇場演劇部門の芸術監督として国内歴代最年少で就任、2019年3月まで3期9年務める。2014年『가모메 칼메기』が韓国の第50回東亜演劇賞演出賞を外国人として初受賞。2019年東アジア文化都市2019豊島舞台芸術部門事業ディレクター。青年団演出部。四国学院大学、女子美術大学非常勤講師。

伝統芸能

民俗芸能 in としま2022

出演：長崎獅子連 富士元囃子連中
雑司ヶ谷鬼子母神御会式連合会
高野右吉と秩父社中 菅生一座 二子流東京鬼剣舞
神楽乃朋友 小山会青年部 斎藤真文

※鬼子母神の「鬼」は、正しくは一画目のツノなし

日程：10月30日(日) 14:00開演
会場：GLOBAL RING THEATRE
(池袋西口公園野外劇場)



舞えてんたかく 響けまつりのおと

豊島区の東西に伝わる長崎獅子舞、富士元囃子、雑司ヶ谷鬼子母神御会式万灯練供養を中心とした民俗芸能の上演と、日本の伝統音楽や民謡を自由自在に進化させ、新しい表現を志向するアーティストによる音楽ライブを野外ステージで開催します。地域に暮らす市井の人々によって、風土や信仰を色濃く反映しながら伝えられてきた民俗芸能。目に映る舞の躍動、耳に響く音やリズムで、まつりの息吹とエネルギーを感じてください。

*アーカイブ配信予定あり

『くらしチャレンジ』 (大人とこどものための戯曲集)

プロジェクトメンバー：阿部健一（ドラマトゥルク・地域計画研究者） 有吉宣人（俳優・ワークショップファシリテーター） 小野晃太郎（劇作家） 齋藤優衣（デザイナー）



Photo by 金川晋呉

日程：10月下旬～11月中旬（予定）
会場：豊島区内会場（予定）

としま発、演劇あそびを体験しよう

地域に根ざしたりサーチを重視する劇団活動と、地域計画を専門とする学術研究という2つのバックグラウンドをもつ阿部健一がディレクションする戯曲プロジェクト。過去2年にわたってアートプロジェクト『移動祝祭商店街』に参加し、豊島区内のまちの人々との間に培ってきた関係をもとに、今回は区内で実際に生活しながらリサーチを実施します。

まちの生活や風景をベースに、公園や家庭などで、こどもから大人までが気軽に演じてみることのできる、都市生活の「練習」「提案」となるような短編戯曲集を作成。また、実演動画の発信、体験ワークショップの実施、まちのリサーチに関連する展示をあわせておこない、この戯曲集を手に入れた人が、それをもとに様々な楽しめる仕組みとなっています。ご参加お待ちしております。

*参加費：無料（会期中、一部事前申込が必要なプログラムが含まれる可能性あり）

阿部健一 あべ・けんいち

1991年、東京都出身。uni代表・演出。ドラマトゥルク。千葉大学大学院園芸学専攻科博士後期課程。2010年、日本大学芸術学部在学中にuni（元・演劇活性化団体uni）を立ち上げ、非劇場空間での演劇活動をはじめ。2013年頃からまちを舞台に、地域の方への取材やフィールドワークを軸とした演劇創作を練馬区中心に展開。環境と身体、時間と存在の間に立ち現れるものをテーマに、演劇とまちを横断して活動している。近年は「移動祝祭商店街 歩く庭」（東京芸術祭2021）や「地域の物語2021」（世田谷パブリックシアター）など、まちと関わるプログラムの構成やリサーチにも携わる。また、大学院で地域計画学を専攻し、パフォーマンスの観点からまちづくりや公共空間に関する研究をおこなっているほか、住民参加のまちづくりやプランニングの現場にも携わる。

山本卓卓×北尾 亘

『となり街の知らない踊り子』

作・演出・振付：山本卓卓
振付・出演：北尾 亘日程：11月4日(金)～11月6日(日)
会場：東京芸術劇場 シアターイースト

Photo: 鈴木竜一朗

シドニーやNYでも好評を得た傑作が初の本格的劇場公演として帰ってきた！
今年、岸田國士戯曲賞を受賞した山本卓卓と、ダンスシーンを牽引する北尾亘のコラボレーション

初演以来、国内はもとより海外でも上演されてきた傑作『となり街の知らない踊り子』。現代社会に蔓延している「他者への無関心」や「無意識のうちの暴力」を描き出す山本卓卓のテキストと、老若男女から電車や犬に至るまで25役を巧みに踊り演じ分ける北尾亘の身体がコラボレートした作品です。

演劇とダンスを両親に持つ本作では、岸田戯曲賞作家である山本の言葉と、ダンスシーンを牽引する北尾の身体がハイブリッドして、舞台ならではの表現を展開します。演劇でもありダンスでもある、極めて現代的な感覚でつくられた本作を、ぜひご覧ください。

<チケット情報>

■発売日：9月10日(土) 10:00～

■料金(全席自由・整理番号付・税込)：一般 3,500円 65歳以上 3,000円 25歳以下 2,500円
高校生以下 1,000円

*未就学児入場不可

*日本語・英語上演

*アクセシビリティ：日本語・英語字幕あり

*豊島区民割引あり(枚数限定・前売のみ・要証明書)

山本卓卓 やまもと・すぐる

劇作家・演出家。範宙遊泳代表。1987年山梨県生まれ。幼少期から吸収した映画・文学・音楽・美術などを芸術的素養に、加速度的に倫理観が変貌する現代情報社会をビビッドに反映した劇世界を構築する。オンラインをも創作の場とする「むこう側の演劇」や、子供と一緒に楽しめる「シリーズ おとなもこどもも」、青少年や福祉施設に向けたワークショップ事業など、幅広いレパートリーを持つ。アジア諸国や北米で公演や国際共同制作、戯曲提供も多数。『幼女X』でBangkok Theatre Festival 2014 最優秀脚本賞と最優秀作品賞を、『バナナの花は食べられる』で第66回岸田國士戯曲賞を受賞。公益財団法人セゾン文化財団フェロー。

北尾 亘 きたお・わたる

ダンサー、振付家。幼少より、クラシックバレエからストリートダンスまで幅広く経験。桜美林大学にて木佐貫邦子に師事。2009年ダンスカンパニー「Baobab」を立ち上げ、全作品の振付・構成・演出を担う。土着的な圧倒的群舞と演劇的要素を持ち味に注目を集める。10回の単独公演のほか、全国の劇場から野外まで多数フェスティバルに参加。近藤良平・杉原邦生作品等に多数出演。近年は舞台・CM・映画作品の振付、WSやレッスン講師なども積極的に行う。日本各地でフィールドワークを行い作品を発表する【さんぴん】としても活動。尚美学園大学、桜美林大学非常勤講師。急な坂スタジオポートアーティスト。横浜ダンスコレクション2018「ベストダンサー賞」受賞。

アトカル・マジカル学園 かぞくアートクラブ

ディレクション：YORIKO

日程：11月12日(土)～11月23日(水・祝)

*土・日・祝日に開催

会場：東京芸術劇場 アトリエウエスト



家族、ときどき同級生。多世代で笑い、学び合うアート体験

美術家のYORIKOが2016年から始め、各地で多くの反響と感動を呼んでいる「おやこ小学校」。2019年には東アジア文化都市2019豊島・舞台芸術部門／アトカル・マジカル学園事業として実施し、昨年度、ついに東京芸術祭に登場した人気プログラムが、今年、さらにパワーアップして家族がチームメイトとして参加する、期間限定の部活動を開催します。東京芸術劇場のアトリエを部室に変身させ、多彩な分野の芸術家たちを先生として迎える、とっておきの参加型イベントです。

*各日募集（複数申し込み可）

YORIKO よりこ

1987年埼玉県生まれ、株式会社ニューモア代表・コミュニケーションデザイナー。様々な地域で「多世代・多業種の協働」をテーマに住民参加型のデザイン・アートプロジェクトに取り組む。2020年より自社事業として、障害福祉×デザインのチーム「想造楽工」を行う。

第35回 としま能の会

出演：観世喜正、野村 萬 ほか

日程：11月14日(月) 18:00開演（予定）

会場：豊島区立芸術文化劇場
(東京建物Brillia HALL)



昨年の公演より 撮影：新宮夕海

ここに“きわめる”。

能楽界を代表する一流の演者による能楽公演。劇場空間でしか味わえない能楽の楽しさを“追究”。豊島区制90周年および「としま能の会」開催35回目を記念し、能楽の大作である『道成寺』ほかを上演予定。能楽堂以外の劇場における『道成寺』上演は過去にも例が少なく、記念を祝う今回に相応しい“極めつけ”の演目を豪華出演によりお届けします。

しゅせんど
『守銭奴 ザ・マネー・クレイジー』

作：モリエール 翻訳：秋山伸子

演出：シルヴィウ・プルカレーテ

出演：佐々木蔵之介

加治将樹 竹内将人 大西礼芳 天野はな

茂手木桜子 菊池銀河

長谷川朝晴 阿南健治 手塚とおる 壤 晴彦



日程：11月23日(水・祝)～12月11日(日) * 休演日有

会場：東京芸術劇場 プレイハウス

ルーマニアの鬼才演出家・プルカレーテが芸劇に帰ってくる。

モリエールの大傑作が ^{わら}金まみれの世界を徹底的に嘲笑す!!!

端正なルックスとエネルギーあふれる演技で、舞台、映画、ドラマなどジャンルを越えて活躍する実力派俳優、佐々木蔵之介。そんな佐々木がほれこんだ演出家が、ルーマニアの巨匠シルヴィウ・プルカレーテです。佐々木とプルカレーテは2017年に『リチャード三世』で初めてタッグを組み、これまでにないシェイクスピア劇で日本演劇シーンに旋風を巻き起こしました。そんな二人のタッグが5年ぶりに復活し、今年、生誕400年を迎えるフランスを代表する劇作家モリエールの傑作中の傑作『守銭奴』に挑みます。あらゆる金を出し渋るドケチオヤジを演じる佐々木は、どんな熱いテンションを見せるのか……。コロナ禍でたまった人々のうっぷんを吹き飛ばすようなプルカレーテの演出に、どうぞご期待ください。

<チケット情報>

■発売日：9月10日(土) 10:00～

■料金(全席指定・税込)：S席 9,500円 A席 7,500円 サイドシート 5,500円 65歳以上 8,000円
25歳以下 5,500円 高校生以下 1,000円

* 未就学児入場不可

* 豊島区民割引(枚数限定・前売りのみ・要証明書)

* アクセシビリティ：聴覚障害者のためのポータブル字幕機貸出・視覚障害者のための音声ガイド
(いずれも提供日限定・要予約)・英語字幕あり(提供日限定)

シルヴィウ・プルカレーテ Silviu Purcarete

【P.10 に掲載】

佐々木蔵之介 ささき・くらのすけ

1968年2月4日生まれ 京都府出身

劇団「惑星ピスタチオ」に旗揚げから参加し、98年退団まで同劇団の看板俳優として活躍。その後、上京して本格的な俳優活動を開始し、テレビ・映画・舞台など数多くの作品に出演、14年には歌舞伎デビューも果たす。第17回読売演劇大賞 優秀男優賞、第47回紀伊國屋演劇賞 個人賞、第40回菊田一夫演劇賞 演劇賞、第38回日本アカデミー賞 優秀主演男優賞受賞。近年の主な出演作は、【舞台】『マクベス』(15)、『ゲゲゲの先生へ』(18)、Team 申『君子無 朋～中国史上最も孤独な「暴君」雍正帝～』(21)、『冬のライオン』(22)【映画】『嘘八百 京町ロワイヤル』(20)、『生きる 島田勲一戦中最後の沖縄県知事』、『科捜研の女-劇場版-』(21)、【TVドラマ】『ミヤコが京都にやって来た!』(ABC・21)、『IP～サイバー捜査班』(EX・21)、『和田家の男たち』(EX・21)など。現在、映画『峠 最後のサムライ』が公開中。23年に映画『嘘八百 なにわ夢の陣』が公開を控える。

東京芸術祭ファーム2022

東京芸術祭ファーム2022 テーマ
「都市をほぐす／Unlearning Cities」

東京芸術祭ファームとは

東京芸術祭の人材育成と教育普及の枠組みです。アジアの若いアーティストの交流と成長のためのプラットフォームであったAPAF（Asian Performing Arts Farm）に、フェスティバル/トークショー（F/T）の研究開発・教育普及事業が合流し、2021年にスタートしました。

今年の東京芸術祭ファームは、研究開発を通じた人材育成のための「ラボ」と、教育普及のための「スクール」の2つのカテゴリで様々なプログラムを実施します。「ラボ」では、他者と協働しながら地域や分野を超えた「トランスフィールド」を開拓し、今後ますます流動的になる様々なボーダーを自由に行き来して活躍する人材の育成を目指します。「スクール」では、大学生を中心とした若い観客を対象に、レクチャーの受講やトークイベントへの参加、レポート執筆など、舞台作品を通して、考え、交流する機会を提供します。

■東京芸術祭ファーム ラボ

- ・公開レクチャー
- ・ Farm-Lab Exhibition
セリーナ・マギリュウ演出作品
y/n演出作品
- ・ Asian Performing Arts Camp
- ・ クリエイティブインターン
- ・ アートトランスレーターアシスタント
- ・ ファーム編集室 アシスタントライター
- ・ 制作アシスタント
- ・ ディレクターズフォーラム
- ・ ファーム ラボ ビジター

■東京芸術祭ファーム スクール

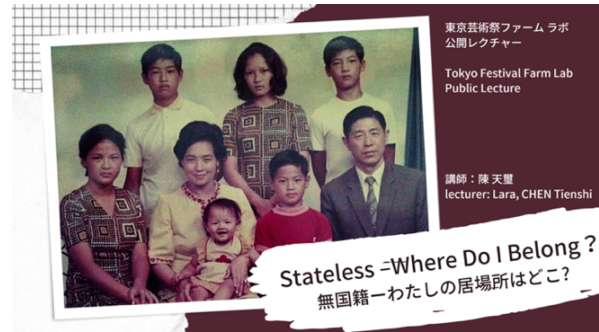
公開レクチャー

「無国籍ーわたしの居場所はどこ？」

講師：陳 天璽（早稲田大学国際学術院教授、NPO法人無国籍ネットワーク代表理事）

日程：8月17日(水) 18:30～21:00

場所：オンライン



国籍やアイデンティティについて考える特別公開レクチャー

東京芸術祭ファームをひらく“Open Farm”の一環として、「東京芸術祭ファーム ラボ」の各プログラムの参加者対象に実施するレクチャーを一般公開します。このレクチャーでは、台湾から日本に移住した両親のもと横浜中華街に生まれるも、日中国交正常化に伴う日台断交により日本の国内法上の無国籍となり、30年ほど無国籍者となった陳天璽氏が講師を務めます。レクチャーの後にはディスカッションも実施し、国籍やアイデンティティとは何かについて、「東京芸術祭ファーム ラボ」のアジアからの参加者とともに考えます。

- * チケット：無料（要申込） ※ビデオ会議ツールZoomを使用いたします。
- * 日本語開催
- * アクセシビリティ：英語逐次通訳あり

陳 天璽 Lara, CHEN Tienshi

早稲田大学国際学術院教授、NPO法人無国籍ネットワーク代表理事。横浜中華街生まれ。国際関係に翻弄され生後間もなく無国籍となり、30年ほど無国籍者として生活。その経験から国籍、アイデンティティに注目し、華僑華人、世界のチャイナタウン、移民、難民、無国籍者についての研究や活動に従事。著書に「無国籍」、「無国籍と複数国籍」、絵本「にじいろのペンダント」など。

Farm-Lab Exhibition パフォーマンス試作発表
セリーナ・マギリュー
『タイトル未定』

演出：セリーナ・マギリュー
 パフォーマー：未定（公募により決定）

日程：10月7日(金)～9日(日)
会場：東京芸術劇場
アトリエイースト・アトリエウエスト（予定）

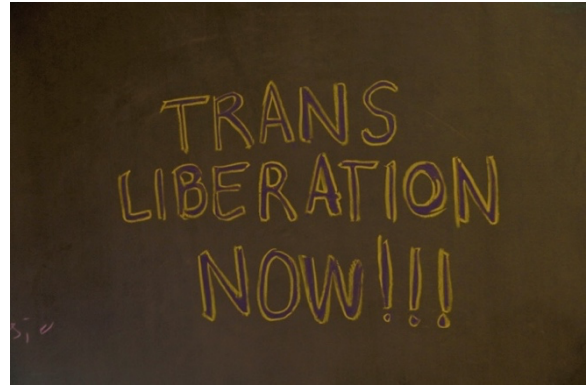


photo:André Miguel

"Spill the T" (2021). Culmination of a weeklong residency by Jzar Tabilin and Serena Magiliw at the Research Institute for the Mapping of Barely Perceptible Light.

セリーナ・マギリュー コンセプトは「クィア・アジア」

「Farm-Lab Exhibition」は、アジアを拠点に活動する若手アーティストが、文化、国籍やバックグラウンドが様々に異なるメンバーとクリエーションを行い、東京芸術祭やアジア各地での上演を目指したワークインプログレスを発表する創作トライアルプログラムです。今年はマニラ（フィリピン）を拠点に活動するセリーナ・マギリューと日本を拠点に活動するy/n（橋本 清+山崎健太）がそれぞれ演出を担当する2チームによる創作を行います。試作発表を一般公開し、観客からのフィードバックを受け、作品やアーティスト自身のステップアップを目指します。

東京芸術祭ファーム2021 Asian Performing Arts Campの参加者だったセリーナ・マギリューは「『クィア』は、アジアにとって新しい概念ではありません。（中略）西洋の二元的な性の概念とは異なる、アジアにおけるクィアのアイデンティティを、私たちの手に取り戻す必要があります」と訴え、「クィア・アジア」をコンセプトに創作に取り組みます。

- * チケット：無料（要申込）
- * 日本語・英語上演（予定）

セリーナ・マギリュー Serena MAGILIW

マニラ（フィリピン）、1998年生まれ。トランスピナイ※の俳優、パフォーマンスアーティスト、アクティビスト。フィリピン工科大学でフィリピン学を専攻中。領域横断的、メディア超越的なストーリーテリングを通してトランスジェンダーのナラティブを提示することで、各種の"シス"テムから自己を解放する深淵さへと観客を誘う。また、Concerned Artists of the Philippines に所属。様々な領域から集ったアーティスト、ミュージシャン、作家、映画製作者や文化従事者たちと共に、国民中心、人間中心の文化芸術の構築を目指している。東京芸術祭ファーム2021 Asian Performing Arts Campに参加。

※ピナイは「フィリピン人」の意。フィリピンにルーツを持つ人が、自ら称して用いる。「ピナイ」「ピノイ」がそれぞれ、同じ名詞の女性形、男性形である。

Farm-Lab Exhibition パフォーマンス試作発表
y/n (橋本 清+山崎健太)

『Education (in your language)』

演出：y/n (橋本 清+山崎健太)
パフォーマー：未定 (公募により決定)

日程：10月7日(金)～9日(日)
会場：東京芸術劇場
アトリエイスト・アトリエウエスト (予定)



2021年度 城崎国際アートセンター
アーティスト・イン・レジデンス プログラム
y/n『カミングアウトレッスン』試演会
城崎国際アートセンター (2021) 撮影：bozzo

y/n (橋本 清+山崎健太) コモングラウンドを仮設する。

東京芸術祭ファームのプログラムのひとつ「Farm-Lab Exhibition」は、アジアを拠点に活動する若手アーティストが、文化や国籍、バックグラウンドの異なる様々なメンバーとクリエーションを行い、東京芸術祭やアジア各地での上演を目指したワークインプログレスを発表する創作トライアルプログラムです。今年はマニラ（フィリピン）を拠点に活動するセリーナ・マギリュートと日本を拠点に活動するy/n（橋本 清+山崎健太）がそれぞれ演出を担当する2チームによる創作を行います。試作発表を一般公開し、観客からのフィードバックを受け、作品やアーティスト自身のステップアップを目指します。

「レクチャー・パフォーマンス」と呼ばれる作品を発表し続けてきた演出家・俳優の橋本清と批評家・ドラマトウルクの山崎健太によるユニットy/n。今回の新作は必ずしもこの形式に限定しないとしながら「観客とどのような関係を結べるのかという点について引き続き、出演者と考えたい」と語り、「異なる文化的背景を持つ私たちが話し合うことで『教育』についての新しい視点が得られることを期待している」と意欲を見せています。

- * チケット：無料 (要申込)
- * 日本語・英語上演 (予定)

y/n (橋本 清+山崎健太)

2019年結成。演出家・俳優の橋本清と批評家・ドラマトウルクの山崎健太によるユニット。リサーチとドキュメンタリーの手法に基づいて私的な領域の事柄を社会構造のなかで思考するパフォーマンス作品を発表している。ユニット名はyes/noクエスチョンに由来し、二項対立や矛盾、答えに達する以前の状態を意味する。これまでの作品に男性同性愛者のカミングアウトを扱った『カミングアウトレッスン』(2020)、セックスワーカーと俳優の仕事を扱った『セックス/ワーク/アート』(2021)、日本における手品の歴史を扱った『あなたのように騙されない』(2021)がある。

橋本 清 HASHIMOTO Kiyoshi

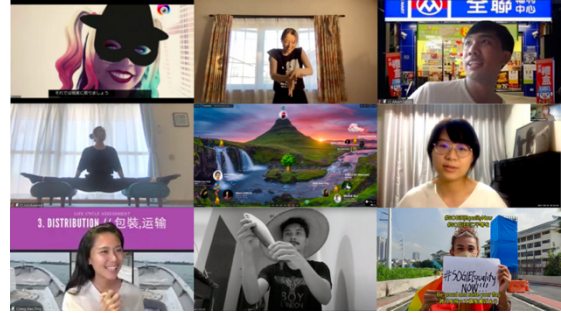
東京(日本) 1988年生まれ。演出家/俳優。日本大学芸術学部演劇学科演出コース卒業。2007年、ブルーノプロデュースを立ち上げ。2012～15年、坂あがりスカラシップ対象者。近年の演出作品に青年団リンク キュイ『景観の邪魔』(2019)、青年団若手自主企画 櫻内企画『マッチ売りの少女』(2020)。出演作に小田尚稔の演劇『是でいいのだ』(2016～22)、生西康典『棒ダチ 私だけが長生きするように』(Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13「TOKYO REAL UNDERGROUND」川口隆夫ディレクション企画「舞踏 ある視点」)(2021)、お布団CCS/SC『夜を治める者《ナイトドミナント》』(2022)。

山崎健太 YAMAZAKI Kenta

東京(日本) 1983年生まれ。批評家/ドラマトウルク。演劇批評誌「紙背」編集長。主な批評に「現代日本演劇のSF的諸相」(「SFマガジン」連載、2014年2月～2017年2月)、「『かっこいい』だけではない三島へ——近年の上演から」(「文學界」2020年12月号)など。2017年度、国際交流基金アジアセンターの人材育成プログラム「Next Generation: Producing Performing Arts 次世代舞台芸術制作者等育成事業」に参加。WEBマガジンartscapeで舞台芸術を中心としたレビューを連載中。

Asian Performing Arts Camp 公開セッション

登壇者：Asian Performing Arts Camp参加者
 モデレーター(Asian Performing Arts Campファシリテーター)：
 山口恵子 ジェームズ・ハーヴェイ・エストラーダ
 ゲストフィードバック：中村 茜 リュウ・シャオイ



日程：10月16日(日) 13:00～18:00
 会場：オンライン

約2ヶ月にわたるオンラインでのアートキャンプを経た、 アジア各地のつくり手たちによるプレゼンテーション

「Asian Performing Arts Camp」は、アジア各地で活動する若手の舞台芸術の人材が、今後の自身の活動やフィールドを耕していくためのアートキャンプです。それぞれの問題意識やリサーチテーマを持ち寄り、文化や国籍を超えたディスカッション、共同リサーチなどを通じて新たな価値観を育むことを目指しています。この公開セッションでは、参加者それぞれが期間中に取り組んだリサーチの結果を一般公開で発表し、ゲストフィードバックを迎えてのフィードバックセッションを行います。参加者にとっては、様々な視点でのフィードバックをもらうことで、リサーチやアイデアをさらに発展させるきっかけとなると同時に、それらをローカルな場に持ち帰り、各自のフィールドで次の一歩を踏み出すための機会でもあります。

- *チケット：無料（要予約）
- *日本語・英語開催
- *アクセシビリティ：日本語・英語通訳あり

山口恵子 YAMAGUCHI Keiko

京都在住、俳優。2011年に演劇グループBRDGを立ち上げ、インタビューやフィールドワークを元に、多文化・通訳に焦点を当てた作品を創作。2020年に日本・フィリピンの青少年と、フィリピンの劇団PETAと協同で『ふれる～ハプロス』を発表、オンライン作品『HELLO』を配信した。俳優として、松本雄吉、マレビトの会、したため、りっかりっか*フェスタ（沖縄）の作品に出演する。2017年アジアセンターフェロー。APAF2020 Labに参加し、翌年のAsian Performing Arts Camp 2021で共同ファシリテーターを務める。2021年より青年団演出部所属。京都・東九条のコミュニティカフェほっこりで店員として働きながらラジオを放送したり、NPO法人スウィングでなんちゃって舞妓をしている。 <https://brdg-ing.tumblr.com/>

ジェームズ・ハーヴェイ・エストラーダ James Harvey ESTRADA

リサール(フィリピン)、1986年生まれ。演劇、映画、パフォーマンスなど多岐に渡る制作活動を行う。作品に、聴覚障害者のエンパワメントをテーマにした『Hear, Here!』や、ドラッグクイーンに焦点を当てHIV感染者に対する差別撤廃を訴える『Reign-Bow』、フィリピン人海外出稼ぎ労働者の苦境を描く『Maikling Dasal, Mahabang Gabi』など。マニラに拠点を置くコンテンポラリーパフォーマンスカンパニーThe Scenius Pro. 芸術監督。コロナ禍での創作・記録のためのオンラインプラットフォームArtists On Q メディア主任兼ディレクター。アンゴノの芸術高等学校で舞台芸術を指導。演劇フェスティバルVirtual Labfest 2020（オンライン開催）で作品発表。APAF2019 Labに参加。APAF2020 Exhibitionのディレクションチームの1人として創作したワークインプログレス作品を進展させ、東京芸術祭2021でも上演。 jeymsharbi.wordpress.com

ディレクターズフォーラム

登壇者：宮城 聡（東京芸術祭ディレクター）
 小川 希（Art Center Ongoing ディレクター）
 マーティン・デネワル（フェスティバル・トランスアメリカ
 共同芸術監督）
 リバー・リン（アーティスト、ADAMキュレーター）
 川崎陽子、塚原悠也、ジュリエット・ナップ（KYOTO
 EXPERIMENT共同ディレクター）
 ファシリテーター：
 多田淳之介（東京芸術祭ファームディレクター）
 長島 確（東京芸術祭ファーム共同ディレクター）



日程：10月31日(月)～11月5日(土) 後日アーカイブ配信あり
 会場：東京芸術劇場シンフォニースペースおよびオンライン ほか

ディレクターに必要な知識・能力・資質とは何か？ 来るべきディレクター像を考える連続フォーラム

舞台芸術の未来を考えたとき、劇場やフェスティバルのディレクションを担える人材の育成は喫緊の課題です。しかし、そもそもこれらのディレクションのために必要な知識や能力、そして資質とはいかなるものなのでしょうか。ディレクターたろうとするために、人は何を学び、どのような経験を重ねていけばよいのか。その答えは、決して自明なものではありません。

「ディレクターズフォーラム」は、これからのディレクターに必要な知識、能力、資質とは何かを根本から考えていくためのプログラムです。国内外の様々なフェスティバルでディレクターとして活躍する4組のゲストを招き、レクチャーを行っていただき、それを踏まえて参加者全員で議論をします。未来のディレクターに求められるものとは何か——将来ディレクターを目指す方をはじめ、この問いに共に取り組んでくださるみなさまのご参加をお待ちしています。

- * チケット：無料（要事前応募）
- * 日本語開催
- * アクセシビリティ：英語逐次通訳あり（第2回・第3回）

スケジュール

8月中旬～9月上旬 参加者募集
 8月下旬 インタロダクション（オンライン説明会） 宮城 聡（東京芸術祭ディレクター）+ ファシリテーター
 10月31日(月) 第1回 小川 希（Art Center Ongoing ディレクター）
 11月1日(火) 第2回 マーティン・デネワル（フェスティバル・トランスアメリカ共同芸術監督）
 11月3日(木・祝) 第3回 リバー・リン（アーティスト、ADAMキュレーター）
 11月4日(金) 第4回 川崎陽子、塚原悠也、ジュリエット・ナップ（KYOTO EXPERIMENT共同ディレクター）
 11月5日(土) まとめの会（仮）

クリエイティブインターン

“トランスフィールド”を経験し、国際的な活動への第一歩を踏み出す「クリエイティブインターン」は、日本拠点の舞台芸術に携わる若手アーティストが、国際的な創造現場の経験を積むプログラム。東京芸術祭ファーム「Farm-Lab Exhibition」のオンライン稽古、滞在制作、成果発表（一般公開）のリハーサルおよび本番のサポートを通じて、参加者自身が国際的な活動に踏み出すための基礎をつくることを目指します。

アートトランスレーターアシスタント

創作現場のコミュニケーションを日本語⇄英語の通訳・翻訳業務を通じてサポートしながら、実践に根ざしたノウハウを学ぶプログラム。コミュニケーションデザインチームのもと、アートトランスレーターアシスタントとして東京芸術祭ファーム「Farm-Lab Exhibition」「Asian Performing Arts Camp」の各現場で活動します。

ファーム編集室 アシスタントライター

舞台芸術の創作プロセスとその成果を言葉で記録し、論じるとはどういうことか、実際の文章執筆を通して学び、探究していくプログラム。

制作アシスタント

今後、国際的なフィールドで活動していきたいと考えている日本国内の舞台制作者が、国際的な作品やプロジェクトのマネジメント経験を積むプログラム。参加者は、東京芸術祭ファーム「Farm-Lab Exhibition」の制作チームとして、海外アーティストの招聘業務や様々なバックグラウンドをもつアーティストのクリエーションの現場で、制作補助業務を行います。

ファーム ラボ ビジター

東京芸術祭ファームをひらく“Open Farm”の一環として実施する見学プログラム。このプログラムに登録した方は、アジア各地から参加者が集まる東京芸術祭ファーム ラボのビジターとして、活動の一部を見学することができます。

スクール

日程：東京芸術祭開催期間中

会場：東京芸術祭会場内



舞台芸術を通して、考え、交流する学生のためのプログラム

スクールプログラム参加者のための特別料金チケットによる作品鑑賞や鑑賞レポート、鑑賞後座談会により、より多くの学生に作品鑑賞の機会を提供し、作品への理解を促します。また、舞台芸術や作品をテーマに様々な角度から語り合うトークプログラムや稽古場訪問では、東京芸術祭に参加しているアーティストやスタッフなど舞台芸術に携わるプロフェッショナルと学生との対話、舞台芸術に関心がある学生間の交流の機会を提供します。

一部プログラムは、東京演劇大学連盟所属大学を中心とした大学の授業と連携して実施します。

*東京演劇大学連盟：演劇の実技教育を担う都内の5つの大学が集い、2013年春に設立した連盟。5つの大学が連携し、演劇の実技教育及び舞台芸術創造の体系化構築を目指した活動を展開している。

【所属大学】桜美林大学芸術文化学群演劇・ダンス専修 玉川大学芸術学部パフォーミング・アーツ学科／演劇・舞踊学科 多摩美術大学美術学部演劇舞踊デザイン学科 桐朋学園芸術短期大学演劇専攻 日本大学芸術学部演劇学科

■オンラインプログラムの実施

このほかにも映像配信やトーク・ディスカッションなど、オンラインで参加・視聴できる複数のプログラムを実施する予定です。どうぞ、お楽しみに！

■チケット一般発売は9月10日（土）開始予定

すべてのチケット情報は、公式ウェブサイトにてわかりやすく取りまとめます。チケットページは9月上旬公開予定。ぜひ、ご活用ください。

■東京芸術祭 2022 特設サイト

特設サイト（トップページ） <https://tokyo-festival.jp/2022>

東京芸術祭 2022の情報はこちらからご覧ください。

■東京芸術祭とは

東京芸術祭は、東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界とつながることを目指した都市型の総合芸術祭で、2016年から豊島区池袋エリアを中心に開催しています。

■開催概要

名称：東京芸術祭 2022

会期：2022（令和4）年9月1日（木）～12月11日（日）

会場：東京芸術劇場、GLOBAL RING THEATRE（池袋西口公園野外劇場）、
豊島区立芸術文化劇場（東京建物 Brillia HALL）ほか東京・豊島区池袋エリア

主催：東京芸術祭実行委員会〔豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、
公益財団法人東京都歴史文化財団（東京芸術劇場・アーツカウンシル東京）、東京都〕

助成：令和4年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業

協賛：アサヒグループジャパン株式会社

※内容は予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。

主催



ARTS COUNCIL TOKYO



東京都

助成



令和4年度 文化庁
国際文化芸術発信拠点形成事業

協賛

アサヒグループジャパン株式会社

■東京芸術祭実行委員会事務局

〒102-0073

東京都千代田区九段北4-1-28 九段ファーストプレイス5F

アーツカウンシル東京 内